

月別概況（平成28年）水産

1月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 717円

近海及び小釣物では、トラフグ水揚げ少なく強保合、後半ヤケイカ漁、増、強保合。甘鯛、クエ漁少なく高値続く。青物では、サバは、静岡からの入荷が安定保合。丸アジは、入荷が安定せず平アジは、県南から少量入荷ありで強保合。サゴシは、県内外からの入荷が安定。月の後半からは値が下落。ブリの入荷は安定しないが値は、下落。養殖物では、カンパチ値動き鈍い。ハマチ、ブリ類安値安定。太物では、本ヨコ入荷安定で保合。ビンの入荷もまずまず、キハダマグロは、入荷まずまず値は強保合。トンボの入荷は、宮崎からが多く値も安定していた。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 521円

ズワイガニは、1月よりアラスカオピリオ漁が開始されたが、漁獲枠40%削減により、大幅値上げとなった。2015年度の価格から更に上昇しており、日本側の引き合いは低調。他の産地についても直近の先高感から相場は、高値横ばいである。

加工水産物

1kg当たり平均単価 661円

ちりめんは、橘で漁があり、値も安定していた。いかなごは、今年も少ないようだ。

2月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 655円

一般近海及び小釣物では、アオリイカ入荷安定、強保合。トラフグ釣物強保合、底曳トラ値安定せず。タコ中頃まで保合、後半入荷少なく高値保合。青物では、サバは、県内外からの入荷が安定し、保合。2月は、サゴシが少なく強保合。アジは、県南からの入荷安定保合、後半から弱保合。ブリの入荷は、少ない。イワシは、県外からの入荷安定、値は保合。養殖物では、カンパチ浜値上昇傾向、相場は高値安定。ハマチ、ブリ類は、浜値相場共に安値安定。太物では、ピンは、鹿児島、宮崎からの入荷が主だった。ヨコ、カツヲは、入荷少なく値も高めだった。キハダは、入荷少なめで品薄高。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 802円

鰻は、シラス漁前年度並の採捕量で価格は、前半250万～300万、後半80万～60万、平均約200万前後となり夏までは、上げ相場。秋以降は、ゆるやかに下げという通年の動きになる気配。

加工水産物

1kg当たり平均単価 532円

香川でイカナゴが始まり値は高く、淡路が中頃から始まり値が高い。和田島は、月末からシラス漁が少しあった。

3月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 645円

一般近海及び小釣物では、悪天候が続き入荷減、相場保合、タコ入荷安定堅調。前年よりタイが水温の影響で入荷遅れ水揚げ少なく保合、サクラ、タチウオ入荷安定、強保合。青物では、サバは県内外からの入荷安定、保合。サクラは前年入荷少なく強担保、ブリは10kgほどの物が、県南から安定して入荷、保合。平アジ入荷少なく強保合。片口イワシ入荷安定せず強担保。養殖物では、カンパチ浜値上昇気味。売値横ばい、ハマチ、ブリ売値、浜値安定。太物では、本ヨコ入荷少なく高値。カツヲは、沖縄、鹿児島からの入荷が主で値は高めピンも値は安定していた。キハダは前半入荷が少なく後半は、入荷まずまずあり値は、続伸だった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 896円

春から夏に向けて酢みそ商材として売れるカリフォルニアロリーゴ（ボイルヤリイカの原料）の国内在庫が各社品薄になっている。国内地タコ原料が高騰している為今が漁期の北海柳タコにスーパー各社は、目を向けている。

加工水産物

1kg当たり平均単価 518円

いかなごは、淡路の漁があり高値。和田島は、始めに少しあったが後半は、漁がなく年々和田島のいかなごの漁は、減り気味である。

4月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 626円

一般近海及び小釣物では、先月同様悪天候が続き底引き入荷減、タコ入荷安定堅調、サワラ水揚げ増で軟調、釣り定置共に水揚げ減。青物では、サバは三重からの入荷が安定、価格は非常に安い傾向にあった。アジ類は地物の入荷は安定、価格の上下差が大きい。ハマチ、ブリ等も安値であった。養殖物では、カンパチは、浜値売値共に高値安定、堅調。ハマチ、ブリは浜値、売値安定、売れ保合。太物では、本ヨコは、入荷少なめで値は高め。カツオは、高知からの入荷が多く値は安かった。ピンは、入荷少ない。マグロ類は、キハダが主で値は高かった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 729円

ブラックタイガー、バナメイ共に相場、横ばいながら端境期の為、国内在庫少なく本格搬入を待っている状態の為、比較的売りは、低調に推移している。

加工水産物

1kg当たり平均単価 638円

前半は、ちりめんが少なく中半から後半にかけて和田島のちりめん漁が増え、値は昨年比べて半値であった。

5月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 644円

近海及び小釣物では大風、大雨等の悪天候多く、水揚げ入荷減、スズキ入荷安定。中半から値が上がりだ

す。鱧水揚げ少なく値安定。後半高値続く。青物ではサバ、丸サバは、三重からの入荷が安定、アジ類は、地物や高知からの入荷が安定。サワラ、サゴシは、入荷が少なく保合。イワシ類は、三重等から入荷し価格は安定。養殖物は、ハマチ、カンパチ、ブリ共に浜値、売り値堅調。太物では、本ヨコは1入が2000円、2入が1200～1400円ぐらいで売れた。カツヲは入荷まずまずあり、ピンは、入荷減少した。キハダは、入荷安定しており値も安定していた。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 800円

ボイルホタテは今期生産終了。噴火湾水揚げ数量4割減の為、浜値高から製品価格上昇、夏向けの消化数量次第で今後の相場が形成される見通し。オホーツク貝柱も昨年の大減産よりも更に減産するという悲観的な見込み。

加工水産物

1kg当たり平均単価 592円

前半は、和田島のちりめんも多く値は、少し安定、後半は、漁は、少ないが品物は、良くなり値も少し上がりぎみ。

6月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 707円

近海及び小釣物では、先月同様悪天候多く、水揚げ入荷量少なく、スズキ高値安定。タコ入荷安定保合。鱧水揚げ安定するが、細く値下がり全国的に悪い。青物では、月後半から県外からの丸サバが多く入荷し、価格は安定していた。逆にマサバの入荷量が少なく価格上昇。アジ系は県外、地物共に入荷安定。サワラ等は、県外からの入荷多く保合。養殖物では、ハマチ、新2年魚のふりかわりの時期になり浜値急上昇。ブリ5k物が少なく浜値上昇、カンパチ浜値売値堅調。太物では、カツヲは、宮城、三重からの入荷があり、値は1入が900円程であった。ピンは、千葉からの入荷が安定、マグロ類は、入荷量が減少。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 793円

東南アジア近海における甲イカ類の状況は、昨年より不漁で、今年に入っても一層厳しい状況となっており、各社は、原料確保、製品の供給を行うために価格改正（値上げ）がしばらく続いており、高値安定である。

加工水産物

1kg当たり平均単価 571円

ちりめんの漁は、昨年に比べて少なく値は、品物が良くなり昨年より少し高い。煮干しは、香川産の漁が多く品物も良く高値。

7月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 821円

一般近海及び小釣物では、港祭り等で港ごとに連休多く水揚げ減。鱧、前年よりサイズ細く水揚げも少ない。スズキ入荷安定高値保合、青物では、マサバ、ゴマサバは夏になりゴマサバがメインになり県内、県外からの入荷があった。マサバの入荷が少なく価格が高騰、アジは、入荷少なく特に平アジは、値が高

くなった。サゴシは、県外からの入荷安定。養殖物では、カンパチ横ばい、ハマチ堅調、ブリ高値傾向。太物では、ピンは、千葉からの入荷が多く値は弱保合。カツヲは、三重、宮城からの入荷が中心で保合。キハダは、輸入物少なく鹿児島からの入荷が多く安値であった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 542円

今年の鰻商戦の要は、取扱高品種、契約時のドル価、国産の取扱比重が争点になり大手は、トレース面の問題からジャポニカ種>ロストラータ種。中堅所は、フランス種。繁忙期に為替が円高に振れ中国物が安値になり、結果的に中国物に比重を置いている所の販売が顕著にみられた。

加工水産物

1kg当たり平均単価 615円

昨年に比べちりめんの漁は、少なく高値。干海老も原料のエビが少なく昨年より少し高値である。

8月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 890円

近海及び小釣物では悪天候多く入荷減、スズキ、タコ、入荷安定保合、鰹は、先月同様水揚げ少ない。釣りサワラ入荷安定軟調。青物ではサバは、地物、県外物共に入荷が激減し値が高騰していた。アジ類は高値で、特に平アジは値が高かった。サンマの入荷が本格的になり高値を保っている。ブリ、ツバスも入荷少ない。サワラは入荷少ないが価格は安定。養殖物では、カンパチ浜値、売り値横ばい。ブリ3年物在池が少なく浜値上昇、ハマチ堅調。太物では、ピンは高知からの入荷が主で天候等の影響で入荷量は少なかった。カツヲは、宮城からの入荷が主で値は、高めだった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 854円

モロッコ原料の大型サイズのタコが不漁で価格が高騰している。年末に向けて国内産の大型サイズに各スーパーは、目をつけている。

加工水産物

1kg当たり平均単価 611円

天候が悪く漁が少なく値は、高値。塩サンマは、漁が少なく高値。

9月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 778円

近海及び小釣物では、台風等が多く漁休みが続き水揚げ減、サワラ、ボーゼ入荷安定保合、タコ入荷少なく、後半高値続く。青物では、マサバの入荷少なく値が高かった。ゴマサバは、県外からの入荷があり価格は安定、サンマの入荷が本格的になってきて値は、高値を保っている。サワラ、サゴシの入荷は少ないが価格はあまり上昇しなかった。養殖物では、ブリ、カンパチ、ハマチ浜値、売り値ともに大きな変動なし。在池漁は、昨年より若干少ない為堅調な動きが続きそうである。太物では、小ヨコが入荷安定し三重からが主で値は、弱保合。カツヲは宮城からの入荷が安定しており値も保合。ピンは高知からの入荷が主で値は安かった

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 771円

ブラックタイガーの現地相場が急上昇し、各産地ともに強含み。価格面で量販店の特売商材であったアルゼンチン赤えびも小型サイズが品薄状態になりサイズによっては、価格上昇傾向にある。

加工水産物

1kg当たり平均単価 677円

昨年に比べちりめん漁は少し多く値も高い。塩サンマは、漁が少なく型が小さく値も高値安定。

10月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 815円

一般近海及び小釣物では、先月同様台風、大風多く休み続き水揚げ減、タコ入荷減保合、アオリ・イカ類水揚げ増、値下がりぎみ、ポーゼ入荷安定強保合。青物では、先月同様マサバ入荷少なく高騰、丸サバは県外から入荷はあるが安定しなかった。サンマは前年に比べ型が小さいが、値は高騰。サゴシ、イワシ等は保合、秋祭りのシーズンが終わるにつれ小アジの値が下落してきた。養殖物ではブリ、カンパチ、ハマチ浜値堅調、在池量昨年より少なめ、売りは保合。太物では、カツヲの入荷は宮城が主だったが入荷は減少し始め値は、1200～1400円程だった。本ヨコは、青森から入荷始まり1900～2000円程で堅調だった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 867円

前月に引き続きチリトラウトは、ドレス原料、トリム製品共に品薄感が強く相場は強含み。今後も生産量少なく搬入は限定的、アトランティックサーモンも依然高値でありトラウトの生産量が少ない為日本以外の海外からの引き合いも強まった。

加工水産物

1kg当たり平均単価 709円

ちりめん漁は、前半大漁で値も安定していたが後半は風が強く漁にいく日が少なかった。

11月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 772円

一般近海及び小釣物では、台風等悪影響続き漁休みが多く水揚げ全体的に減、トラフグ、クエ等も前半水揚げもあったものの、中頃より減、高値。平日は、前半安値、中頃高値、後半保合。青物では、マサバは、関東方面からの入荷があり価格も安定。サンマも北海道からの入荷がなくなり東北からの入荷が始まり、値も安定。サワラ、サゴシは、県内外からの入荷があったが、値は安定しなかった。養殖物では、ブリ、ハマチ浜値堅調、カンパチ浜値下げ気味在池量は、昨年より1割少なめ。売りは、ハマチ保合、カンパチは売れ行き悪し。太物では、ヨコの入荷が多くなり鳥取、島根等日本海側からの入荷が多かった。カツヲは、入荷が減少し値も安値、ビンも入荷少なくなり値は、安値。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 851円

11月1日より台湾シラス漁がスタートし現状は昨年と同水準。価格は、少し弱め12月15日～徳島を含め全国的な漁解禁になりスタート価格は、弱めが期待されるが好不漁によってポジション価格の変動の幅が大きくなる可能性もある。

加工水産物

1kg当たり平均単価 731円

和田島ちりめん漁は少なく、全国的に漁は少なく値は、高い。

12月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 814円

近海及び小釣物では、サワラ入荷安定保合、クエ等高級魚の注文減、トラフグ入荷減値は、保合。サバフグ水揚げ少なく高値続く。ハゲ類前半高値保合、中頃から入荷増、値下がる。青物では、サバ系は、県外からの入荷が安定していた。平アジ、丸アジ共に入荷少なく値も安値で安定していた。サゴシは、県内外からの入荷が安定、ブリ、ハマチは、日本海側からの入荷があり価格も安定。養殖物では、ブリ、ハマチ類堅調、カンパチ安値安定、ブリ、ハマチ在池量は、昨年より1割少なめ、カンパチの在池量は、昨年より多め売りは、保合。太物では、ヨコは長崎、高知等からの入荷が多く値は保合、ピンは入荷が少なく値は高値、カツヲは、入荷少なく値は高値、年末メバチ近海物高値。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1030円

国内、海外共にタコ原料は水揚げが少なく高騰している。北海タコは、メイン漁期. が3月～4月例年並みの水揚げが予想されているが大手スーパーが工場と直接交渉し数量をおさえる可能性がある為値段は、未定。

加工水産物

1kg当たり平均単価 792円

数の子の値は、昨年と同じ、秋鮭は、漁が少なく値は、昨年より高い。